

中長期目標 (学校ビジョン)		保護者・地域と連携し、望ましい職業観・勤労観を身につけ、知・徳・体のバランスのとれた次代を担う若者を育てる		令和2年度 自己評価表		鳥取県立鳥取商業高等学校	
				今年度の 重点目標	1. 鳥商生としての自覚と誇りを持ち、自ら考え、判断し、行動できる力をつける 2. 望ましい職業観・勤労観を身につけ、進路実現に向けて努力する 3. 健康に留意し、学力向上と部活動に励む 4. ビジネス社会及びグローバル社会に必要な力を身につける		
		年 度 当 初		評 価 結 果 (9)月			
評価項目	評価の具体項目	現状(平成31年度実績等)	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1. 鳥商生としての自覚と誇りを持ち、自ら考え、判断し、行動できる力をつける	【自覚と誇りを持つ】 ・鳥商生であることに自覚と誇りを持ち、規律正しい生活を送っている。 ・校内・校外を問わず、明るい笑顔で気持ちのよい挨拶ができ、制服を正しく着こなしている。	・91%の生徒が鳥商での高校生活に満足していると回答している。 ・97%の生徒が正しい身だしなみを実践、92%が自ら進んで挨拶していると回答している(学校生活アンケート)が、日常的に挨拶できている生徒の数は減ってきている。 ・校内、校外を問わず、明るい笑顔で気持ちのよい挨拶ができ、制服を正しく着こなしている。 ・96%の保護者が「鳥商は保護者・地域社会から信頼されている」と回答。(学校評価アンケート) ・94%の保護者が「生徒は挨拶やルール、マナー等社会に通用する意識や態度が育っている」と回答。(学校評価アンケート) ・89%の生徒が学校行事、生徒会活動、部活動に積極的に参加していると回答。(学校生活アンケート) ・93%の生徒が安心で安全な学校生活を送っていると回答。(学校生活アンケート) ・74.9%の生徒が年間を通して無遅刻であった。遅刻回数は1日平均 2.02件、一人あたり0.68回(通院等による遅刻も含む)。 ・QUアンケートを年間2回(3年生は1回)実施。結果や普段の学校生活の様子をもとに、教育相談員、学年団と連携しながら、配慮を要する生徒については個別に対応した。教育相談員と生徒、保護者、教員との面談回数は延べ180件であった。	・90%以上の生徒が、商業高校で学ぶ目的意識を高く持ち、鳥商に入學して良かったと思っている。 ・年間無遅刻の生徒が80%以上、一人あたりの遅刻回数が年間0.4回以下である。 ・学校内外を問わず、全校生徒が気持ちのよいさわやかな挨拶が自らできている。 ・学校内外を問わず制服の正しい着こなしができている。 ・地域社会から信頼と信用を得ている。 ・規範意識が高く、社会、学校の規則を守り、場面にに応じた言動をとっている。 ・学校行事、生徒会活動、部活動に積極的に参加し、集団に貢献している生徒が90%以上。 ・安心で安全な学校生活を送っていると感じている生徒が90%以上。	・将来の職場での仕事や上級学校での学びにつながる鳥商での学びのスタイルを継続し、将来の社会生活に向けての自立を支援する。 ・「社会生活を送る上で必要な日常生活における挨拶、正しい身だしなみ、規律遵守などの指導を継続して行い、自分の姿を客観的に見る力を養う。」 ・学校内外での行動や態度により自分への信頼感を高めることが学校全体に好影響をもたらし、地域社会からの学校全体への信頼にもつながることを意識させる。 ・生徒一人ひとりが鳥商生としての誇りを持ち、学校の活性化に貢献することを意識させながら行事等を実施する。 ・生徒玄関での挨拶運動と遅刻指導を継続して行う。 ・学校生活アンケートを引き続き実施する。 ・QUアンケートを1、2年生は年2回、3年生は年1回引き続き実施し、その結果を含めて教育相談員と生徒情報を共有し、配慮を要する生徒についてはケース会議等により関係者で丁寧に対応していく。必要に応じて外部機関と連携する。	・1年生に対しての商業教育の導入としてビジネス基礎研修を4月に実施。鳥商で学ぶことと実社会との関連を話し、また鳥商に対する地域からの期待度の高さを伝え、日々の挨拶、身だしなみ、規律遵守が高い評価につながっていることを意識させた。しかし、コロナ禍により一堂に会しての指導の時間が取りにくく、鳥商での「学びのカタチ」に生徒が慣れるのに例年より時間を要した。 ・2、3年生に対しては商業学科集会で再度鳥商教育の目的、上級生としてあるべき姿を伝えた。 ・挨拶について上級学年になると比較的にできるようになるが、生徒によって差があり学校全体としては十分ではない。また登下校時も含めて学校外での行動や身だしなみにに対する意識をより高める必要がある。 ・9月末までの遅刻統計は1日平均2.78(2.47)件、生徒一人あたり0.49(0.4)回。()内は昨年度同期。遅刻連絡カードを活用しての指導を継続する。 ・5月に全学年で、9月に1・2年生を対象にhyper-QUアンケートを実施。結果や日常の観察を基にして教育相談員と連携しながら気になる生徒に対応している。	C	・中止となったビジネス体験実習の代替行事として、10月に進路学習デーを実施し、企業の方から話を聞くことによって職場で求められる知識や資質についての理解を深める。 ・端正な身だしなみと節度ある行動、場に応じた振舞いを常に心がけることの意義と目的を繰り返し伝える。挨拶をすることの意味を理解させながら指導を継続する。
	【自ら考え、判断し、行動できる】 ・規範意識、人権意識が高く、秩序だった言動ができるとともに、周囲や集団のために貢献する姿勢が身についている。						B
2. 望ましい職業観・勤労観を身につけ、進路実現に向けて努力する	【望ましい職業観、勤労観を身につける】 ・3年間を通した効果的な体験的活動によって、自立・自律のための実践力や応用力の育成が行われている。	・キャリア教育全体計画に基づく体験活動を予定どおり実施。1年生ビジネス体験実習(10月9日から11日まで)、2年生研修旅行(同期間中)、3年生第26回鳥商デパート(11月30日・12月1日)を中心にそれぞれの活動について事前指導事後学習を含めて実施できた。就職、進学に関して卒業生、外部講師を招いての講演会、マナー指導、面接指導なども実施し進路決定に役立った。 ・自己表現学習プログラムを年間計画に沿って実施。各種講演会においては謝辞を生徒代表に行わせた。3年生に対して、全職員が論文指導、面接指導を実施。就職内定率、進学先決定率はともに100%である。1、2年生ではSHR時に1分間スピーチを行い、自分の意見を発表する経験を積ませた。 ・検定週間を設け計画的に補習を実施。3年生の全商検定1級取得状況は3種目以上が58人(79人)であり取得率は33.5%(41.4%)、1級未取得者は11人(6人)。()は一昨年度。1級7種目取得者2名(3年2名)。経産省基本情報技術者試験1名(3年)合格、経産省ITパスポート試験2名(3年)合格。 ・夏季休業、冬季休業中に全学年で商業科目の補習を実施。3月臨時休業明け(3月18、19、23日と学年末休業(3月26・27日))に1・2年生全員に商業科目と英語の補習を実施。3年生は進学希望者を対象に普通教科の平日補習を実施。 ・全学年対象の公務員セミナー(7月31日から8月2日まで)を実施。 ・1年生対象に4年制大学見学会(12月2日甲南大学、大阪経済大学)を実施。 ・就職希望者、進学希望者ともに全員が進路決定できた。 ・4年制大学進学希望者に対し、鳥取大学入学センターの協力を得て研修会を開催した。	・各学年において、キャリア教育に関する体験活動が体系的に計画され、実施されている。 ・自己の社会生活、職業生活に結びつく進路選択がなされている。 ・自己の進路目標の実現に資する各種模擬試験、実務検定試験等に意欲的に取り組んでいる。 ・各種模擬試験、実務検定試験等の受験への支援が計画的に実施されている。 ・自己の進路目標の実現に資する各種模擬試験、実務検定試験等に意欲的に取り組んでいる。 ・長期休業期間中の補習、3年生進学希望者対象の平日補習を継続して実施する。 ・4年制大学進学希望者対象の大学セミナー(鳥取大学、鳥取環境大学)への参加を進め、全学年対象の公務員セミナー、1年生4年制大学見学会を継続して実施する。	・令和2年度ふるさとキャリア教育全体計画に従って、事業・行事を実施する。事前、事後の指導も含めて実践力の向上を目指す。 ・自己表現力育成プログラムを年間計画に沿って実施するとともに、表現力を豊かにする一助として必要な知識量(語彙力、社会事象についての知識など)を増やす取り組みを進める。 ・3年生への小論文指導、面接指導や就職希望者への社会人による面接指導を継続して実施する。	・コロナ禍により中止、延期、変更を余儀なくされた体験事業、行事がある。実施できたものについては事後の振り返りを通しての成長を期待したい。 ・自己表現力育成プログラムを継続して実施している。3年生への自己表現力育成講演会は県内講師に変更して実施した。 ・3年生への小論文、面接指導は全職員で取り組んでいる。	B	・キャリア教育全体計画に従って、感染防止対策を徹底しつつ、可能な形で行事を実施する。事前、事後の指導も含めて実践力の向上を目指す。 ・自己表現力育成プログラムを計画に沿って実施。講演会の謝辞を生徒に行わせる。 ・3年生への小論文指導、面接指導を継続して実施する。
	【進路実現に向けて努力する】 ・体系的計画的なキャリア教育によって、将来の社会生活、職業生活に結びつく進路選択が行われている。 ・進路実現に資する模擬試験、実務検定試験等に積極的に取り組んでいる。				・検定実施日にあわせての検定週間の設定と補習を継続して実施する。 ・長期休業期間中の補習、3年生進学希望者対象の平日補習を継続して実施する。 ・4年制大学進学希望者対象の大学セミナー(鳥取大学、鳥取環境大学)への参加を進め、全学年対象の公務員セミナー、1年生4年制大学見学会を継続して実施する。	・9月に英語検定週間を設けて補習を実施した。9月末現在の時点で3年生の全商1級3種目以上取得者は63人(40人)、2種目が52人(61人)である。()は昨年度同期。 ・全学年で夏季休業期間中に補習を実施。延べ266人が参加。(昨年度203人) ・3年生の進学希望者(大学、看護系)を対象に模擬試験を実施した。 ・公務員志望者(全学年)へは7月29日(水)～31日(金)に公務員セミナーを校内で実施した。外部より講師を招いて実践的な学習を行った。 ・4年制大学進学希望者に対し、鳥取大学入学センターの協力を得て鳥取大学・公立鳥取環境大学で研修会を開催した。	B
3. 健康に留意し、学力向上と部活動に励む	【健康に留意する】 ・基本的な生活習慣の大切さをよく理解し、運動・食事・睡眠に留意した規則正しい生活を送っている。	・毎朝食摂取88%、1日の運動量2時間以上57%、平均睡眠時間6～8時間75%と、生活リズムのよいバランスの取れた健康的な生活ができている。81%の生徒が運動・食事・睡眠を意識した規則正しい生活が送れている。86%の生徒が生活リズムが確立され授業に集中できていると回答(学校生活アンケート)。 ・学校内のけが、部活動による故障が多く、捻挫・挫傷・打撲が増加している。アキレス腱・関節や体の硬さが一要因。体のメンテナンスにかけられる時間がないことが原因。 ・睡眠が6～8時間取れているのに、疲れている。スマホ使用時間が長く、時間の使い方が上手でない。自己管理、コントロールする力が不足。 ・保健だよりを発行し生徒・保護者に時期に応じた健康管理の啓発を実施。 ・スクエアに関する健康教育LHRを12月に実施。 ・体育祭(9月)での商高体操と全校強歩大会(10月)を実施。 ・新体力テストで県平均を上回る項目が多い。	・欠席、遅刻をしないで、運動・食事・睡眠を意識した規則正しい生活を送っている生徒が80%以上である。 ・適切な健康管理が行われており、自主的な運動を心がけ体力向上に努めている。 ・生活リズムが確立され授業に集中できている生徒が80%以上である。	・生活習慣の整っていない生徒への個別指導を継続し、心とからだを休めて、リセットする方法を体感・会得させる。 ・学校生活アンケート、健康教育アンケートを実施する。 ・けがを予防する意識づけのための健康教育LHRを実施する。 ・体育行事(体育祭、強歩大会)を実施する。	・新体力テストのアンケート集計結果が、コロナ禍の影響でまだ業者から返却されていない。 ・新型コロナウイルス感染防止のため、消毒や手洗いの環境を整備し、啓発を図った。 ・保健だよりを月1回発行し、感染症予防、熱中症予防の啓発に努めている。 ・体育活動、行事は感染拡大防止の観点から、実施方法を見直しつつ実施した。 ・昨年度の本校生徒の健康課題として指摘された「ケガの予防」をテーマに、健康教育LHRを9月17日(木)に生徒保健委員会主導で、実際の実技指導とオンラインを併用して実施した。	B	・新体力テストのアンケート集計結果を今後の健康指導に活用する。 ・生活習慣の整っていない生徒への個別指導を継続するとともに、個々の実態に応じて必要な支援を行う。 ・感染症予防については他人事でなく各自の予防意識が大切であることを認識させる取り組みを進める。 ・強歩大会(26km)を10月23日(金)に実施する。
	【学力向上に努める】 ・主体的に授業に取り組み、秩序のある学習態度が保たれている。 ・進路実現を意識した自宅学習が、継続的に積み重ねられている。	・6月1学期期末考査前1週間の自宅学習時間(1日あたり)は、1年140分(113分)、2年145分(112分)、3年129分(126分)と各学年とも一昨年同期より増加。()は一昨年同期。10月平常時の自宅学習時間は1年34.5分(75.1分)、2年40.6分(30.1分)、3年24.6分(52.8分)であった。クラス間の差が大きい。 ・11月5・6日の中国五県商業教育研究大会で授業公開と研究協議・シンポジウムを実施。 ・2月14日にエキスパート教員公開授業(商業)を実施。	・商業科目、普通教科科目ともバランスよく学習し、定期考査期間を除く家庭学習時間が1日平均60分以上である。 ・部活動に全生徒が加入し学習との両立に努めている。 ・部活動が知・徳・体のバランスのとれた人格形成の場になっており、優勝を目指した努力が積み重ねられている。 ・各部活動が互いに切磋琢磨し、全国大会出場の一部活動が1以上となっている。	・学校全体として年間2回の自宅学習時間調査を継続する。 ・家庭学習と授業との連動をはかり、期間を限定しながら日々の学習時間と内容を記録させる取り組みを計画する。 ・初任者研修対象者等の授業研究の機会を活用して校内研修を実施するとともに、相互授業参観を促進し授業力向上を図る。 ・鳥取県部活動方針に沿って休業日を設けるなど活動時間を見直し、活動の効率化を図り、自ら練習方法を考えることにより、学習との両立を進める。	・1学期期末考査前1週間の自宅学習時間を調査。昨年同期より各学年とも時間が増加した。1日平均で1年139分→146分、2年143分→180分、3年126分→205分。 ・前期授業アンケート結果から、学年が上がることで復習している生徒が減少している。 ・GoogleClassroomやスタディサプリの導入による学習支援の取り組みが進みつつある。	B	・自宅学習の内容を具体的に指示し授業と関連させる。課題の量も適正かどうか再検討する。GoogleClassroomやスタディサプリを活用した自宅学習の支援を進める。 ・10月19日(月)からの1週間自宅学習時間調査を実施。平常時の学習状況を把握する。 ・11月13日(金)に中堅教諭等資質向上研修に係る授業研究を実施する。
	【部活動に励む】 ・すべての生徒が部活動に加入し、優勝を目指した努力を積み重ねること、人間的に成長している。	・部活動の加入率は97.9%。いずれの部も中国大会、全国大会を目指して熱心に活動したが、全国大会出場の部活動は7にとどまった。 ・帰宅時間が遅く自宅での学習時間が確保できない生徒もある。	・部活動の全員加入を継続する。各種大会での上位成績、中国大会、全国大会の出場を目指しながらも人格形成の場であることを第一とする。 ・鳥取県部活動方針に沿って休業日を設けるなど活動時間を見直し、活動の効率化を図り、自ら練習方法を考えることにより、学習との両立を進める。		・99.1%の生徒が部活動に加入し活発に活動している。複数の部を兼部している生徒も多いが、1年生ですでに退部した生徒も数名ある。しかし、全国規模の各種大会の中止が相次ぐ中でも、各自の目標を見据えて努力する姿が見られる。 ・帰宅時間が遅く自宅での学習時間が確保できない生徒もいる。	B	・部活動への全員加入を継続指導する。 ・部活動への支援を継続しつつ、自宅での学習時間も確保できるよう活動時間を時期に応じて変更する。
4. ビジネス社会及びグローバル社会に必要な力を身につける	【社会人に必要な力を身につける】 ・笑顔の挨拶、時間厳守、正しい制服の着こなし、丁寧な言葉遣いができる。	・定期的な服装頭髪指導に加え、日常的に学校生活全般にわたって挨拶、身だしなみ等指導を行った。全校集会等の場面でも注意を喚起。 ・ほとんどの生徒は場に応じた適切な言葉遣い、相手に配慮した言動が取れている。 ・学校評議員会・学校関係者評価委員会を3回実施。産業界、教育界、保護者代表から本校教育についてご意見、ご提言をいただいた。 ・マナーアップさわやか運動をPTAと協力して2回実施。	・社会人として身につけておくべき挨拶の仕方、場に応じた適切な言葉遣いができている。 ・相手に好感を与える制服の着こなし、高い規範意識、人権意識に基づく言動が取れている。 ・授業や様々な行事の開始時間に対し、余裕を持った行動が実践できている。 ・鳥商の集大成である第27回鳥商デパートにおいて、鳥商での生活全般で習得したビジネスの知識、技術を実践、応用できている。 ・図書の貸し出し冊数が増加している。 ・生徒がグローバル社会を実感できるよう留学生、海外からの訪問団を積極的に受け入れるなど異文化に触れる機会を設定している。 ・全商英語検定の取得状況が昨年度より向上している。	・定期的な身だしなみ指導のみならず、挨拶、言葉遣いなどのマナー指導はビジネス教育でも行う。端正な姿が生徒自身の評価につながり、学校全体の評価につながることを意識させる。 ・コミュニティスクールの導入により学校運営協議会を開催し、多様な立場の意見や提言を聴取る。	・定期の身だしなみ指導だけでなく、学校生活全般で頭髪・身だしなみの指導を実施しているが改善の余地はある。 ・6月29日(月)に第1回学校運営協議会を開催し、各委員から意見、提言をいただいた。 ・4月、9月のさわやかマナーアップ運動は実施できず。	C	・身だしなみ、頭髪、挨拶などマナー指導を継続して行う。端正な姿が生徒自身の評価につながり、学校全体の評価につながることをビジネス教育全般で意識させ、日々の身だしなみや清掃の指導を徹底する。 ・第2回学校運営協議会(授業参観も含む)を11月10日(火)に開催する。
	【ビジネス実践力を向上させる】 ・授業や体験的活動等によって習得した知識や技術を、実践力・応用力の育成に活かすことができる。	・第26回鳥商デパートを開催。全学年生徒が参加し保護者にも協力いただいた。売り上げ13,439,466円。来場者数9,576人と過去最高を記録した一昨年にはわずかに及ばなかったものの、お客様満足度は96.3%と一昨年も2.6ポイント上昇した。2月13日には成果発表会を開き企業、学校評議員会、学校関係者評価委員の方々に参観いただき、講評をいただいた。 ・2月末時点での図書貸し出し冊数は延べ3,690冊。一人あたり6.9冊と一昨年度より増加した。授業での利用時間数は345時間(一昨年度同期は312時間)となり大幅に増えた。教科、分掌と連携した読書指導を実施し、全国高校生ビブリオバトル大会に県代表として出場するなどの成果を挙げた。	・年度初めに集合指導を行い、生徒に速やかな全体集合を実践させる。 ・今後の学級感を念頭におきつつふるとキャリア教育の視点も踏まえ、学びの実践の場としての諸行事のあり方の検討を進める。 ・鳥商手帳を活用してのビジネス実践力(スケジュール管理等)を高める。 ・学習環境、教室環境の整備を含め授業規律をより徹底する。 ・新着図書紹介、国語科と連携した授業などを通して読書や時事問題への関心を高める。 ・アメリカ合衆国バーモント州エセックス高校との交流の具体化に向けた協議を進めるとともに、交流の核となる生徒の組織作りを進める。 ・海外交流事業参加への積極的な応募を勧める。 ・全商英検での1級受験、実用英語検定の準2級以上の受験を勧め、生徒の英語運用能力を向上させる。 ・1年生コミュニケーション英語Ⅰでの英語習熟度別授業を活用して基礎知識の定着のための学習と発展的な学習を平行して行う。	・4月全体集合指導はコロナ禍により中止した。以降の全校集会、全体集合の場面も限られており、自分たちで列を整えられるまで至っていない。 ・チャイムと同時に授業が開始できる態勢づくりに改善の余地がある。 ・第27回鳥商デパート経営委員会を発足させ、7月3日(金)に第1回、9月29日(火)に第2回閉会式、10月2日(金)に設立総会を開催し、準備を進めている。 ・9月末時点での生徒の図書貸出冊数は延べ2,329冊。一人あたり4.3冊(昨年度同期4.2冊)。授業での利用時間数は265時間(昨年度同期211時間)。2・3年生の図書貸出冊数は昨年度より増加したが、1年生は減少している。	・全体集合指導を全職員で自覚を持って継続する。生徒自らが迅速に集合するようお互いに働きかけられるように促す。 ・海外交流事業参加への積極的な応募を勧める。 ・12月実施全商英検での1級受験後、実用英語検定の準2級以上の受験を勧めつつ、生徒の英語運用能力を向上させる。 ・習熟度別授業の継続を県教委に要請する。	C	・授業アシスタントの配置の継続を県教委に要請する。 ・担当分掌を限定せず、業務アシスタントの幅広い活用を進める。 ・校内ノーツ掲示板的活用方法をさらに推進する。
	【グローバル感覚、語学力を磨く】 ・異なった意見に対する寛容の精神と、自分で伝ええる力を兼ね備えた自己表現力が身につけている。 ・グローバル感覚、英語運用能力が向上している。	・アメリカ合衆国バーモント州エセックス高校との学校間交流が決定。 ・鳥取県バーモント州青少年交流事業に本校2年生が参加。2学期終業式で全校に報告。 ・全商英語検定1級取得者は16名(一昨年度12名)と増加し合格率も上がった。2級、3級の合格率は95%と一昨年度(92%)よりは上昇した。 ・1年生コミュニケーション英語Ⅰで習熟度別授業を実施。			・エセックス高校との交流の実現に向けて、英語の授業での学校紹介動画の制作等、実施可能な交流から着手する。 ・海外交流事業参加への積極的な応募を勧める。 ・12月実施全商英検での1級受験後、実用英語検定の準2級以上の受験を勧めつつ、生徒の英語運用能力を向上させる。 ・習熟度別授業の継続を県教委に要請する。	C	
	5. 業務改善の取り組み	校務分掌・任務分担の見直しを実施する。	・夏季休業中に、対外業務停止日を3日間設定し、夏季休業中の夏季休暇取得が促進された。 ・業務アシスタントの活用により、当該分掌の職員の業務が削減され、生徒対応に専念できる時間が増えた。 ・ノーツの校内掲示板の活用により、多様な勤務形態の職員も含めての効率的な情報共有ができた。 ・部活動の月別計画と実績表の活用により、部活動指導における生徒の活動時間や勤務時間外の指導時間を可視化することで、業務の適正化への職員の意識が高まった。	・月当たりの時間外業務を令和元年度比で10%削減する。 ・休業日、活動時間を設定した活動方針を全部活動に徹底する。 ・時間外業務月45時間以上勤務者を解消する。	・夏季休業中に対外業務停止日を設定する。 ・校務分掌の任務分担を見直し、業務量の適正化を図る。 ・校内掲示板の活用をさらに推進する。 ・部活動方針を明確化して顧問に周知徹底するとともに、部活動の月別計画と実績表を活用し、生徒の心技体一体となった発達のあり方の検討を進める。	・夏季休業中に、対外業務停止日を3日間設定した。 ・学校衛生アシスタントや業務アシスタントの配置により、一定期間、当該分掌の職員の業務が削減され、生徒対応に専念できている。 ・校内ノーツ掲示板的活用方法が定着しつつある。	B
長時間勤務者を解消する。					・県から示された部活動の月別計画と実績表の新様式により、勤務時間外の指導時間や休業日の設定状況の把握に努めている。コロナ禍により部活動が制限を受けた影響で、勤務時間外の指導時間が減少している。		・部活動の月別計画と実績表を活用し、各部の事情に応じた部活動の年間の活動の在り方について検討を進める。